

米国 子供の健康レポートが不適切な食生活を指摘

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月26日

MAHA(米国を再び健康に)委員会の報告書は、小児慢性疾患の2つの主な原因として、不適切な食生活と化学物質を強調

ホワイトハウスは5月22日、ロバート・F・ケネディ保健福祉長官の「子供達を再び健康に (Making Our Children Healthy Again)」報告書を発表した。この報告書は、子供の慢性疾患の主要因に焦点を当てている。

米国疾病予防管理センター(CDC)の調査によれば、米国の0歳から17歳までの約7,300万人の子供のうち40%が少なくとも1つの慢性的な不健康状態にあると同報告書は述べている。これには、喘息、アレルギー、肥満、自己免疫疾患、行動障害等が含まれる。

この文書は、子供の健康悪化の背後にある2つの主要因として、不適切な食事と環境化学物質を強調しており、米国の農業・食品業界の注目を集めている。報告書が挙げた他の2つの要因は、身体活動の欠如と慢性的なストレス、及び過度の医療依存である。

米国農務省のブルック・ロリンズ長官は、政府は「子供達や家族の健康状態を改善するためにもっと努力しなければならない。トランプ大統領は、農業が解決策の中心にあることを知っている。アメリカの農業生産者や牧場主は、自国と世界を養うという崇高な目的に人生を捧げ、そうすることで、世界で最も安全で、最も豊富で、手頃な価格の食料の供給を実現してきた。我々は、その生産する最も健康的な食品を子供達や家庭が消費できるように取り組んでいる」と述べた。

米国保健社会福祉省はプレスリリースで、報告書の調査結果に基づいて、82日以内に「子供達を再び健康に」戦略を策定するとしている。

報告書は、子供たちがますます多くの合成化学物質や高度に加工された食品にさらされており、それが「栄養素の不足、カロリー摂取量の増加、有害な添加物への曝露、発達上の問題、及び慢性疾患」につながっていると明確に述べている。

この報告書は、米国の農業生産者の役割を強調し、健康と農業の革新が1900年以降に米国の平均寿命を30年以上延ばすのに役立ったことを指摘している。報告書はしかし、それでも主要な科学・医療機関の多くが自己満足に陥り、組織の利益に大きく影響され過ぎていると主張している。

報告書は、その目的が「徹底的な透明性の確保と米国の健康に対する考え方の中心に米国の農業生産者が置かれる世界を構築すること、そして病気が管理されるだけでなく予防され改善することで米国の医療制度が繁栄し、偉大な米国の復活を成し遂げ、今後10年間で生活水準と繁栄に革命をもたらすこと」であると述べている。

報告書は、米国の平均的な子供の摂取カロリーの70%が現在、高度に加工された食品に由来していることを強調し、この過度の依存を危機と表現している。また、子どもが発達の重要な段階で化学物質への曝露に対して特に脆弱であると指摘し、米国で使用が登録されている4万以上の化学物質を挙げている。

報告書によると、目標は「米国の農業生産者や牧場主が生産するホールフード(自然な状態の植物性食品)を医療の中心に置く」ことであるが、それらは可能な限り元の形に近いものであるべきである。高度に加工された穀物、砂糖、脂肪が問題の中心にある。報告書は病気の要因として、高果糖シロップ(異性化糖)、添加糖、ケーキ、クッキー、精製パン、キャンディー、スナック、精製油を挙げている。

業界の懸念

一部の農業生産者や共和党の指導者達は、報告書が広く使用されている除草剤であるグリホサートに言及していることに懸念を表明している。チャック・グラスリー上院議員(共和党、アイオワ州選出)は水曜日に、同報告書の潜在的な影響について心配している農民の声を耳にすると述べた。

ケネディ保健福祉長官は、報告書がそれらの人々に害を及ぼすことはない述べ、文書が米国の農業と農業生産者の重要性を繰り返し訴えていることを強調した。

報告書はまた、農薬や化学分野の研究における企業の影響力についても論じており、産業界が資金提供していない研究の50%が一般的な農薬が有害であるとしているのに対し、化学業界が資金提供した2005年以前の研究の100%がビスフェノールA (BPA)を安全と見なしていたと指摘している。産業界が関わらない研究の90%以上はこの物質が低用量でも有害であると特定していた。

この文書はグリホサートに言及し、農薬、除草剤、殺虫剤と健康への悪影響との間の潜在的な関連性について懸念を提起する研究を引用している。すなわち、いくつかの研究が、グリホサートを生殖・発達障害、癌、肝炎及び代謝異常と関連付けていると指摘している。しかし、この文書は「最も一般的な除草剤の疫学データに対する連邦政府のレビューでは、ラベルの指示に従った薬剤の使用と健康への悪影響との間に直接的な関連性は確認されなかった」ことを明確にしておき、米国政府は2026年に一般的な除草剤に関する最新の健康評価を発表する予定である。

(関連記事) 米国 青果物団体が子供の健康レポートに反応

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月26日

国際青果物協会 (IFPA) は、5月22日に「米国を再び健康に (MAHA: Make America Healthy Again)」委員会がホワイトハウスで発表した報告書を受けて、以下の声明を発表した。

「IFPAは、トランプ大統領がMAHA委員会を通じて米国の食生活関連の健康危機に取り組む姿勢を高く評価する。本日の子どもに焦点を当てた報告書は、我々の食料システムの栄養の質を改善するためにやるべきことがあるとの認識を示している。また、この報告書が、米国人と彼らに食料を提供する農業経済にとっての果実、野菜、その他の特産農作物の重要性を具体的に認識していることも評価する。」

「米国人の10人に9人が果実と野菜の消費目標を達成しておらず、5歳未満の子供の最大半数が日常的に野菜を摂取していない状況で、MAHA委員会は、果実と野菜の消費を増やすためのエビデンスに基づく介入に焦点を当て、新鮮で豊富な果実と野菜を日々忠実に米国人に提供している米国の生産者の繁栄を確保する政策を支持するべきである。」

「MAHA委員会が政策の策定に進む中、当協会は今年これまで(3月)に同委員会に送付した[提言](#)を維持し、青果物セクターがすべての米国人の健康状態を改善する政策の形成に関与する機会を得ることを待ち望んでいる。青果物セクターは長い間、栄養政策の改善を求めてきたが、我々はまた、同委員会がこれまでの成功について認識するよう促したい。報告書で認められているように、WICプログラム(妊娠・授乳中の母親と乳幼児を対象とした栄養補助制度)は、主に果実と野菜の利点によって健康状態の改善に効果的であることが証明されている。また、全米学校給食プログラムは、この事業による食事を頼って参加している3千万人の生徒に毎日果実と野菜を提供している。その結果、社会経済的状況に関係なく、学校給食はほとんどの子供達にとって1日に食べる中で最も健康的な食事となっている。」

「この報告書は、食料生産の実践と規模に焦点を当て、多くの意見を含んでいるが、その中にはいくつかの疑わしい主張、連邦規制当局の調査結果に反するもの、及び食品の安全性について国民を混乱させる可能性のある矛盾した主張が含まれている。次回の報告書では、委員会が農業生産者や出荷業者とより緊密に協力し、透明性、官民研究及び技術革新に基づいたリスクベースでデータ主導型の科学的意思決定において、米国が引き続き輝かしい世界標準であることを裏付けるような提言を行うことを願っている。」

「食生活関連の疾病は、我々が共に対処できる、そして対処しなければならない危機である。果実と野菜へのアクセスと消費を拡大し、エビデンスに基づく栄養政策を支持し、生産者を支援し力付けることで、我々は有意義で持続的な方法によって公衆の健康を増進させることができる。米国の農産物業界は、より健康な国を築くという大統領のビジョンに基づき、トランプ政権と積極的に連携する用意がある。」